

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-〇〇〇〇
施設名	墨田区亀沢保育園
施設所在地	墨田区亀沢1-27-5
法人名	社会福祉法人清心福祉会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

地域の資源を活かそう
(風)

<テーマの設定理由>

日頃の保育より自然現象に目を向ける言葉がけを工夫し、子どもたちの発見を保育士も楽しんでいる。その中でも四季折々に感じる風。「匂い・温度・強さ」そこから子どもたちの何故?を拾い保育を行う。月に一回行われる園行事「はっぴいday」で風をテーマにした遊びを行い、風で浮くものや浮かないもの、跳び方や空気抵抗など子どもたちの探究活動を行う。

2. 活動スケジュール

令和7年4月1日～令和8年3月31日

10月8日 はっぴいdayの日に風のワークショップを行う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・風のトンネル(装置)・トンネルに入れてみる素材(風船、スズランテープ、紙コップ、発泡スチロールのボール、花紙、紙皿、ビニール袋、綿、梱包材)・ビニール袋の家と新聞の家(全園児と遊ぶ2日前から年長児と一緒に製作)・空気砲(テーブルの上に段ボールと的を設置)・制作(落とすとくるくる回る紙)・落とすスペース・袋あそび(サーキュレーター、ビニール袋、傘袋)
園舎全体を使い自由に遊びを選択して遊べるよう環境を設定した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

園舎内の数部屋を使い、様々な風で遊べるものを用意、児たちは好きな遊びを選択して遊んだ。空気砲コーナー、風トンネルコーナー、ビニールと新聞の家コーナー、不思議な袋コーナー、作って遊ぼうのコーナーを設置。風トンネルで風で浮かぶものを探したり、サーキュレーターの風を傘袋に送り込みその様子を観察したりと風を感じられるあそびを楽しんでいった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

保育士は子どもたちの主体性を大切にすることを心がけ、子どもたちの不思議に思う気持ちに寄り添う声掛けを意識した。風のトンネルでは、初めて行った際は風で浮くことを喜び、浮かなかった際には残念そうにする姿もあった。しかし、何度も繰り返し行っていると「これなら浮かかな?」「これとこれを一緒にしてみたらいいんじゃない?」という声が聞こえるようになり、自分たちで実験を始めていた。

乳児クラスの子は風がなくなると袋が萎んでいく様子を不思議そうに見つめたり、自分で袋を押して風を外に出すことを楽しむ姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

正解をすぐに教えるのではなく、子どもたちの疑問や発見に耳を傾け、必要な環境や物を用意しておくだけにした。そうしたことで、子どもたちが自分たちで実験をし始め、成功も失敗も楽しんでいた。また、その後の活動「散歩」「凧作り」「風車」などでも子ども達からも「風が強い」「こっちから風が吹いている」とちょっとしたきっかけを作ることで子どもの意識が変わりそこに耳を向ける職員の意識も変わった